

米国で再生可能燃料基準を見直す動きが活発化； 「10%ブレンドの壁」を超えられるか¹

新エネルギー・国際協力支援ユニット
新エネルギーグループ

米国の製油業者は、再生可能燃料基準（Renewable Fuel Standard：RFS）のもとで毎年一定量の再生可能燃料をガソリンに混合することを義務付けられている²。RFSの運用をめぐってはこれまでも様々な議論があったが、米国議会では最近、制度そのものの見直し、もしくは撤廃に向けた試みが活発化している。

昨年10月、下院エネルギー商業委員会のFred Upton委員長、およびパネルの民主党議員を代表するHenry Waxman下院議員が、基準の改正を求めて交渉していると報じられた。12月12日には、超党派の10名の上院議員が、セルロース系エタノールなどの次世代バイオ燃料の利用を後押しする一方で、現在米国で販売されている再生可能燃料の大部分を占めるコーン由来エタノールに対するRFSを撤廃するという内容の法案を議会に提出した³。中西部などコーン生産州出身の多くの議員はRFSを支持しているため、この法案が可決される見通しは低い、議会では今後も同様の法案が提出される可能性は高い。

こうした動きの背景には、米国の畜産業界や製油業界からの働きかけがある⁴。一昨年夏、米国では早魃によって家畜用飼料の原料となるコーンの生産量が予想を大幅に下回り、穀物相場が高騰したが、同じコーンを原料とするエタノールとの競合が価格の上昇に拍車をかけた⁵。以来、畜産農家はその後遺症に悩まされている。また、RFSは製油業界にとっても頭の痛い存在となっている。製油業者がエタノールを生産・輸入すると、再生可能識別番号（RIN）⁶と呼ばれる売買可能なクレジットが発行される。多くの製油業者は不足分の

¹ 本稿は経済産業省委託事業「国際エネルギー使用合理化等対策事業（海外省エネ等動向調査）」の一環として、日本エネルギー経済研究所がニュースを基にして独自の視点と考察を加えた解説記事です。

² RFSは「2005年エネルギー政策法」（Energy Policy Act 2005）の中で設けられ、その後「2007年エネルギー自立・安全保障法」（Energy Independence and Security Act of 2007）により、いくつかの修正が加えられた（RFS2）。RFS2では、2022年までにガソリンに混合する再生可能燃料を年間360億ガロンに増やすという目標を掲げ、この目標達成に向けて年度ごとの使用義務量を定めたほか、コーンエタノール以外の先進バイオ燃料の導入も盛り込まれた。

³ Dianne Feinstein（民主党、カリフォルニア州選出）、Tom Coburn（民主党、オクラホマ州）他、8名の上院議員が共同で提出した。

⁴ 穀物価格の高騰は食品価格にも影響し、ファストフード・レストランや鶏肉製造といった業界も義務量の引き下げ要求に加わった。

⁵ 2012/2013年は、早魃の影響で供給量が減少したコーン119億ブッシェルのうち、46億ブッシェル以上のコーンがエタノールとその副産物に使用された。

⁶ バイオエタノール供給業者に対しては、1ガロン生産するごとに1クレジットが発行される。製油業者

RIN を購入することによって RFS 基準を満たしているが、この RIN の取引価格が昨年急騰し、各社の利益を圧迫した⁷。実際の需要に対して使用義務量が多すぎることが原因であるとして、製油業界から見直しを求める声が高まっていた。

こうした状況を受け、米環境保護庁（EPA）は昨年 8 月、妥協案として 2014 年の再生可能燃料の使用義務量を引き下げる方針を明らかにした。11 月半ばに発表した最終案⁸では、同年の使用量を法律が定める 2014 年の規定量 181 億 5000 万ガロンから、16%少ない 152.1 億ガロンに減らすとした。

しかし、こうした措置は一時しのぎにすぎない。米国は現在、エタノールの利用に関して「10%ブレンドの壁」と呼ばれる状況に直面している。米国内では多くの地域でエタノール 10%混合したガソリン（E10）が販売されるようになったが、現状では E10 をすべての地域でオールシーズン販売することは技術的にもコスト面でも困難とされる。また、自動車の燃費向上により、ガソリンの消費量も頭打ちとなっている。今後もガソリン消費量の減少傾向が続いた場合、RFS を遵守するには、10%を超える高い混合率のガソリンの利用を増やす必要がある。

E10 以外では、フレックスカーと呼ばれる適合車に対して E85（混合率 85%）という高い規格の燃料も販売されているが、普及は進んでいない。また、一部の車種では E15（混合率 15%）の使用も許可されているが、事故やそれに伴う訴訟のリスクから、多くのガソリン販売業者は販売を躊躇している。実際、10%超の混合率の安全性については、自動車業界が疑問を投げかけている。米国で販売されている車種のすべてのエンジンに安全に対応できるのは E10 までとされている。

「10%ブレンドの壁」は、米国における再生可能燃料の利用が飽和点に達していることを意味している。RFS はすでに需要の実態にそぐわなくなっており、政府はより根本的な解決策を迫られている。

お問い合わせ : report@tky.ieej.or.jp

はバイオエタノール購入時にこのクレジットを受け取り、ガソリンの混合量を証明する。規定のクレジット数を満たせない製油業者には罰金が科される。

⁷ 2013 年初頭には 1 単位当たり 7 セントだった RIN 価格は、昨年 9 月には 1 ドル 43 セントに上昇した。

⁸

<http://yosemite.epa.gov/opa/admpress.nsf/6424ac1caa800aab85257359003f5337/81c99e6d27c730c485257c24005eecd0!OpenDocument>